

PLUS ULTRA 秘訣その1 やったことのないことはやってみる

3年生から社会科や理科の授業が始まります。2年生までの生活科などの学習を礎に、新しい教科の学習への挑戦です。新しい教科に向けて、子どもたちの気持ちは悲喜こもごもですが、一様に「やる気」に満ちていることに気づかされました。

「社会が始まるから楽しみです。教科書もきれいだし、早くやりたい」

「難しくなる勉強が心配だけど、がんばりたい。もっといろんなことを勉強したい」

「お姉ちゃんから（社会のことは）ちょっと聞いた。初めてのことは緊張するけれど、やったことのないことはやってみるといいことがある。だから、はやくやりたい」

なんとも頼もしい言葉が聞かれました。

今は、VUCA（変動性（Volatility）不確実性（Uncertainty）複雑性（Complexity）曖昧性（Ambiguity））の時代だといわれます。実感ありますよね。やっと携帯電話になれたのに、えっ、iPhone が登場？？学校には持ち込んではいけません！と金切り声での指導を経て、今や全員がタブレット端末を持つ時代。ここまで、たった15年ほどです。

早すぎます。

もともと人類の誕生からの狩猟採取の時代（society1.0）は、数万年以上。さらに農耕の時代（society2.0）でやっと定住ができるようになるまでこれも数万年くらい。蒸気機関が生まれ、工業の時代（society3.0）までが数千年。そして、コンピュータが開発されて情報の時代（society4.0）になるまでが数百年。現代、サイバー（仮想）空間とフィジカル（現実）空間が高度に融合する新たな時代（society5.0）の到来までは多く見積もっても、80年ほど（アランチューリングのコンピュータに関する論文が発表されたのが1936年。最初のコンピュータが発表されたのが1946年といわれています。（ウィキペディア参照））。

なんだ、この加速度的な早さは！！

なぜか、を考えることもとても大切なことです。しかし、もうこの早さは止められないので、どうすればいいかを考えることを優先させた方がよさそうです。その方法こそが、やったことないことは、まずはやってみるという姿勢ですね。

私たち大人は、やったことがないことがとても苦手です。なんだか、自分の生活様式を変えたり、これまで（過去）が否定されることに大きな違和を感じたりしてしまいます。だから、過去のことを「常識」とよび、周りもそれに従わせようとしがちです。

逆に、子どもたちの柔軟な思考は、変化に親和性が高く、やったことがないことに恐怖や拒否を感じる前に、好奇心を覚え、やってみたいと思うことが多い。新しい教科「社会」を学びたいと、やってみたいと思う我が楡木の子どもたちも、そうです。もちろん、個人差はありますが、大切なこの好奇心は、いつの間にやらしぼんでしまうのも事実。いや、しぼまされたといった方がいいか。

これから生きる子どもたちは、私たち大人が大切にしてきた過去を生きるのではない。子どもたちにとって、PLUS ULTRA は、普通の日常なのかもしれませんね。